

センダン(梅檀)出会いから11年 カスケード型センダンの活用

2011年9月九州大学での早生樹最前線シンポジウムが開催されて、この11年間で、早生樹の認知及び活用と各地への広がりが出来てきており、林野庁も推奨するテーマになってきている。
この11年を振り返ります。

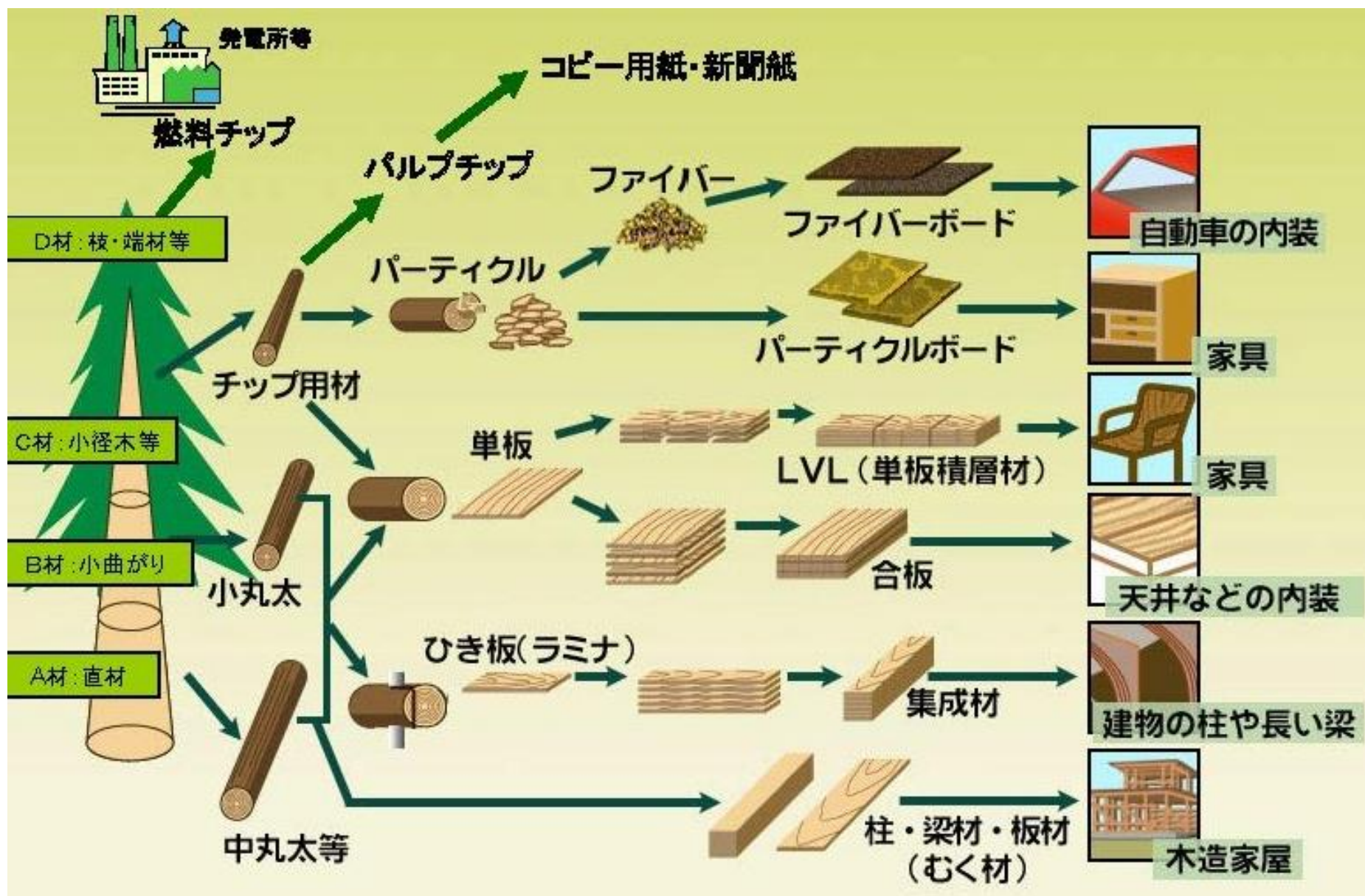
2022年10月7日
大川化粧合板工業協同組合
理事長 池末 和海

カスケード型活用とは

木材は最初の段階で建材など木のまま利用されて、次の段階ではパーティクルボードや製紙、堆肥などの原材料としてリサイクルされ、最終的には燃料として使われて灰になり、自然に帰るというサイクルがあります。この多段的な流れを指して、木材を無駄なく活用するという意味でカスケード利用といいます。

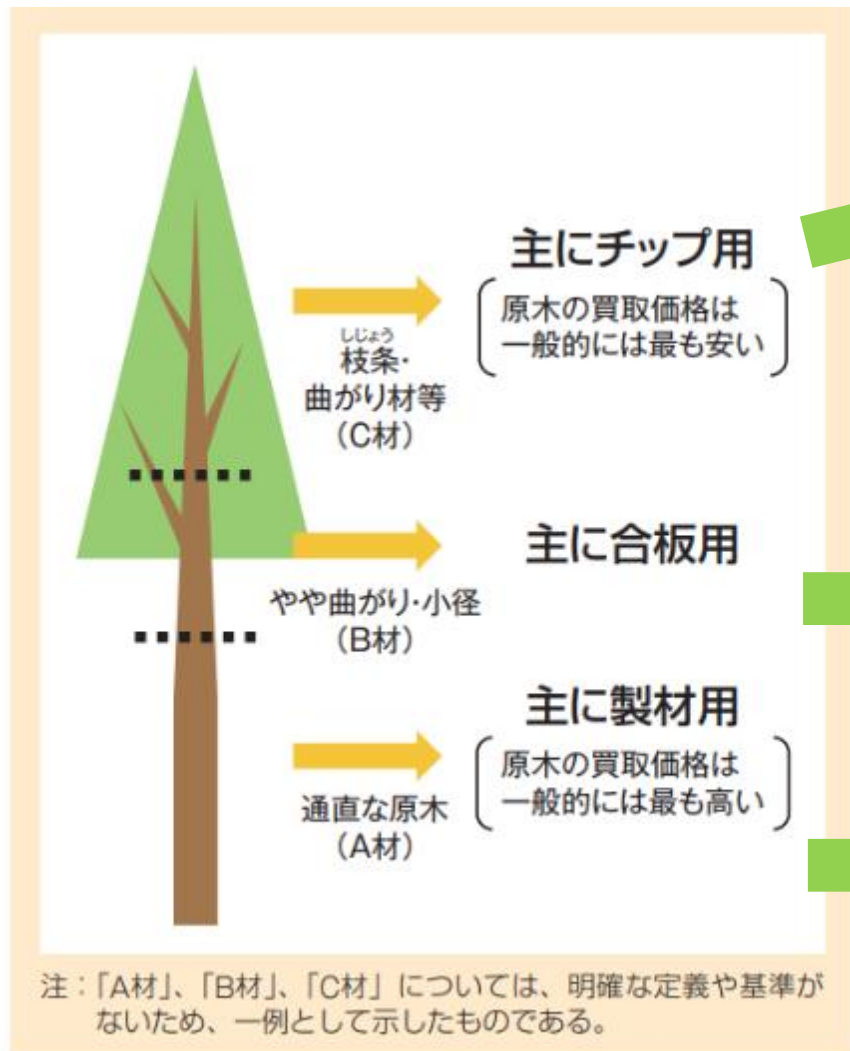


木材のカスケード型活用



センダンのカスケード型活用について

原木とその用途（イメージ）



未利用用途の開発

葉の活用：センダン茶
 枝条、曲がり材：衣文かけ、帽子掛け
 ストローに加工や、小物品

フリッチ化をして集成材として活用
 集成板から家具や建材に
 集成板から突板生産し表面材に

長材は、スライサーで突板化し表面材

早生広葉樹活用の活動(海外材検討)

大川化粧合板工業協同組合としては、植林材で早生樹の活用を目指し、フィリピンの3大樹種の活用を検討していた。(2009年12月9日～16日フィリピン現地調査)

植林フィリピンマホガニー



植林アカシア



植林チーク



当時としては、試作完了で活用の方向性を見出そうとしたが、材料の出荷、価格面等で断念し、国内に早生広葉樹がないかを調査していた。

日本の早生広葉樹との出会い

■日本にもある早生広葉樹との出会い

日本木材学会の早生樹最前線シンポジウムでの出会い

2011年9月30日九州大学での早生樹シンポジウムで、熊本県林業指導研究所と大川家具との用途開発を打診、11月9日大川メンバーがセンダンの植林地の視察をし、活用の検討がスタート。

早生樹最前線！シンポジウム

2011年9月30日開催



2011年11月9日大川メンバーがセンダンの植林地の視察。



センダン原木の製材～商品

福田富治さんとの出会い



福田さんのセンダン間伐



2012.2.20 中村満材木店にて製材



製造メーカーとのタイアップで高級家具 & 内装材への活用検討



- 高級家具への活用検討(境木工製造の福田氏のTVボード)2013年10月完成

大川家具展でPR

■2013年10月の大川家具展示会で展示

国産材 Project

センダン材



Profile



(1923~2012)

福田富治

熊本県天草郡苓北町で長年、林業で生計を立ててこられ杉、桧を植林されてきました。
しかし、杉、桧の植林だけでは自分の代では収穫できませんので、一世代15年位で実用化できる樹種の開発に力を注がれました。
2012年に他界。
その遺志を息子の国弘さんが引き継がれ、現在も植栽に励まれています。

2013年4月に地域材活用家具展で9種(檜、ケヤキ、椎、センダン、山桜、栗、銀杏、楠、杉)の国産材活用の家具の展示がなされ、10月の展示会でセンダンでの商品がPRされた。



の落葉、落葉樹の木材
利用を模索し、センダ
ン草と落葉樹生木屑材に
活用を進めようと森務
ツアー、シンポジウ
ム、ワークショップ形
式の勉強会などを行っ
ている。

→同社は協賛施設代表
世話人ら十数人が十日
に亘る本郷大夢でのセン
ダン森林地視察、育林
士についての情報交換会
などをした後、同市を
訪れた。

大川口町立板土農園
同組合が受託で同市の家
庭肥料をめぐり、

興、安藤ヌーカリーが夫
妻のセンダーを材料に
製造したタフニングケ
ール、デビルボードな
いす、カットボードな
どの家具や突板を買
取。カメノに取戻なが
ら同組合の池田紀雄選
手専ら質問していた。

その後、同市農業の
調査も訪問や同組合と
の連絡を通じた情報
交換なども行なった。

今後とも各地の密着
なぐちにも調査の早生
産費用を下げたい」と

福元代表世話人・大川
口の木工業界も関係材
用推進を図っている。
思いを同じくする人た
ちと連携し、取り組
みたい」と津澤達也君
話していた。

(森本 明)

センダン(梅檀)の木材利用価値の芽かき

芽かきの発見が通直性を実現

自生するセンダン(横に広がる)



芽かき作業



芽かき「発見が

林業を変える

通直木材としての利用価値が向上する



4年生のセンダン(熊本県林業研究指導センター展示林)

用材の用途を目指した植林(202012.4)



柿木園(菊池市)でのセンダン植栽の経過活用

柿園跡地に高さ約2mのセンダンを約100本植林。(2014. 4. 8)
3年後に間伐し、間伐材の利用検討

2014年4月8日植栽



2016年間伐

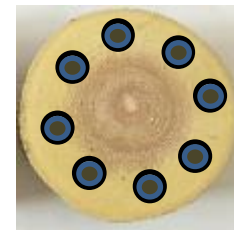


3年後直径6～9cmの間伐材の
活用検討

間伐材活用検討



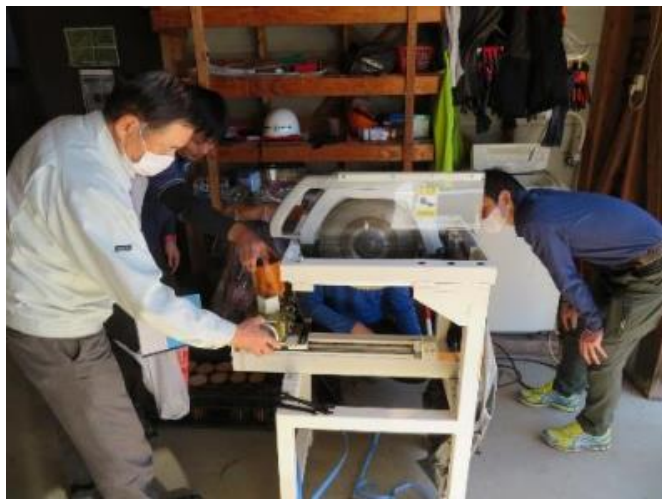
コースターとペン立て



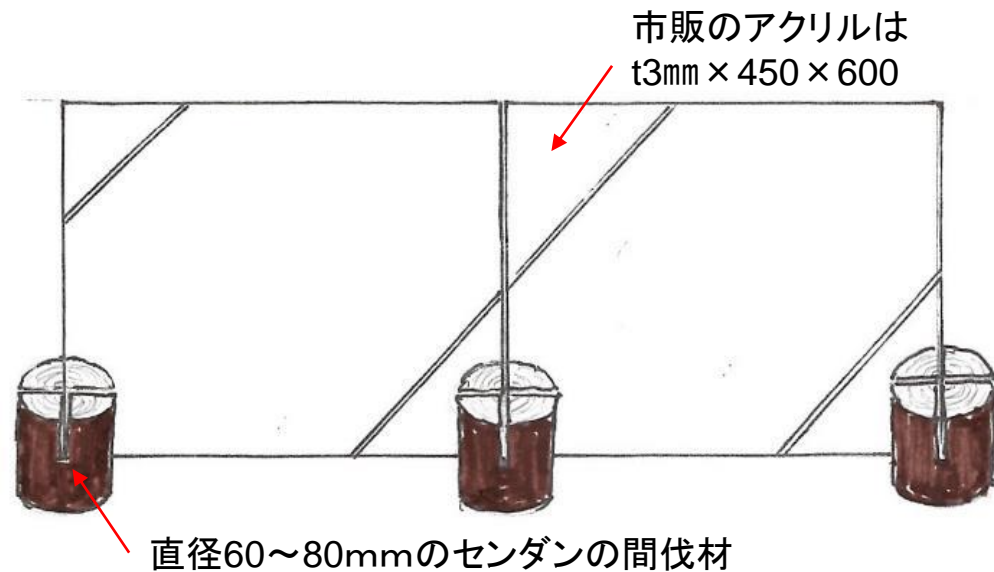
センダンは、3年目で間引きする必要がある。
その間伐材を活かす取り組みを大川で取り組んでいく

センダン間伐材の活用の活動

ソーシャルディスタンスパネル用台座と加工設備作成



溝加工の設備を作成



十字や8文字等の加工が可能



透明パネルの利用状況

6年目の菊池のセンダン活用の紹介

大川新春展(1月)でのボード



大川夏の彩展(7月)でのテーブル天板



菊池の8年生センダンの伐採 (2022年3月30日)



1本目の元口38cm



1本目の4mの末口26cm



2本目の元口30cm



2本を7尺に切断し搬送

2021年11月30日撮影
胸高直径35cm、4m末口30cmで伐採予定

※ 建材用と家具突板用に製材し、加工の確認や
木目の把握をして試作を行う。

センダン8年生の商品化検討



8年生センダンの天板

自生センダンの天板



自生センダン



植林センダン

木目及び自然色から見ても活用できるが、あと5年
13年生での木目と色調に期待がかかる



自生センダンのロータリーレース

センダン突板で展開する商品について

自生20年生のセンダン商品



植林8年生間伐材のセンダン商品



植林6年生間伐材のセンダン商品



ウォールナット色塗装商品

使用材料の植林センダン
8年生



6年生



センダンで展開する商品について

セダントレー



センダンコースター



センダン茶



これからの推進について

2011年9月九州大学での早生樹最前線シンポジウムがきっかけで早くも11年が経過しました、早生樹の認知及び活用と各地への広がりが出来てきており、林野庁も推奨するテーマになってきている。

日本の林業の将来を変える可能性を秘めたセンダン材が期待されている面をご理解いただき取り組んでもらえしたいと思います。
色んな壁がありますが、それを乗り越えることで将来の日本の林業が見えてくると 생각합니다。

各地にある早生広葉樹を利活用する仕組みを構築し、大川の物づくり技術で付加価値のある商品を開発し、発信して循環型でいろんな業種がかかわり林業を活性化していくことこそSDGsの求める持続可能な開発に繋がるのが重要です。

大川でモノづくりのお手伝いをいたします。